



- 観察場所/東京都新宿区新宿5丁目 付近の交差点
- 観察日/5月18日(木曜日)
- 天候/曇
- 観察時間/16:30~17:30
- 観察者/5名

混合交通を観察する
DOCUMENT
series—196
Eye

●ライダーとパッセンジャーが着用しているヘルメットの形状と着用状況を観察する
1時間に観察したライダーとパッセンジャー428人中、ヘルメットを正しく着用していない人、75人(17.5%)

●WHY

ライダー、パッセンジャーは正しくヘルメットを着用しているか?

二輪車(原付・自動二輪)に乗車する際は、交通事故発生時に頭部の損傷を軽減するために有効な、ヘルメットの着用が義務付けられている。平成16年の着用率は98%と、ほとんどのライダーとパッセンジャー(同乗者)がヘルメットを着用している。

一方、二輪車乗車中に交通事故で亡



イヤホンをしながら走行するライダーも観察された

くなったライダーとパッセンジャーは、合わせて1313人(平成16年)。このうち27%にあたる359人は、事故発生時にヘルメットが脱落してしまっている。同様に、亡くなっていない方でもヘルメ

●WATCHING

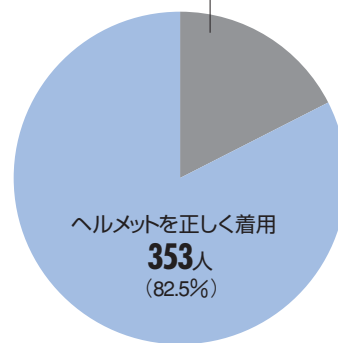
あごひもが緩かったり、締めていないライダーが目立つ原付

観察場所は、東京都新宿区新宿5丁目付近の交差点。

平日の夕方1時間の観察で、原付168台、スクーター(51cc以上)157台、スポーツバイク85台の計410台が交差点を通過した。このうち二人乗りの二輪車は、410台中18台だった。

観察の結果、別表のようにほとんどのライダーとパッセンジャーはヘルメットを正しく着用していた。しかし、あごひもが緩い例が428人中41人、全く締めていない例も31人、非着用(ヘルメットを頭部から大きくずらした状態)は3人、観察された。

ヘルメットを正しく着用していない人
428人中75人(17.5%)



ヘルメットの形状は、保護範囲が広い順にフルフェイス型、ジェット型(オープンフェイス型)、スリークォーター型(耳をカバーするハーフキャップ型)、ハーフ型の4つに大別される。スポーツバイクやスクーターではフルフェイス型やジェット型のヘルメットが多かったのに対し、原付は、ハーフ型がほとんどであ

●PROPOSE

安全を軽視せず、あごひもはしっかり締める

あごひもを締めない、締め方が緩い場合には、交通事故発生時の衝撃で、ヘルメットが頭部から脱落してしまうおそれがある。しっかりと着用するのが、面倒だといった意識は、安全の軽視にほかならない。

今回の観察では原付のライダーを中心に、ヘルメットの正しい着用方法を理解していない人もいたと思われた。ヘルメットのサイズや種類などの正しい選び方、



写真上/ハーフ型ヘルメットを逆向きにかぶっているライダー
写真下/ヘルメットの下に携帯電話を挟んでいる人も見られた

着用の仕方、あらゆるライダーに再認識してもらう必要がある。また、パッセンジャーにはライダーが率先して正しい着用をアドバイスしてほしい。

ヘルメットは自分自身の命を守る装備である。あごひもをしっかりと締めなければその機能が十分に発揮されないということを忘れてはならない。

●生活道路の安全について考える小冊子
「トラフィック・タウン」発行
(いつもの道の安全)



Hondaは、生活道路での安全について考える小冊子「トラフィック・タウン」(いつもの道の安全)を作成した(監修:久保田尚・埼玉大学教授)。この小冊子は近年、増加している生活道路で起こる交通事故を防ぐためのヒントをいくつか取り上げ、子どもから高齢者まですべての交通参加者の交通行動や事故事例を知ること、事故を未然に防ぐ運転を知ってもらうことを目的としている。

Hondaの四輪販売会社および二輪販売店を通じて、お客様に配布する。

●主な内容

- ①「生活道路の事故」~見通しの悪い交差点では、きちんと一時停止していますか?
- ②「生活道路の子ども」~子どもの飛び出しを予測して運転していますか?
- ③「生活道路の高齢者」~高齢者の行動特性を理解していますか?
- ④「生活道路の自転車」~自転車の急な動きに対応できていますか?
- ⑤「生活道路のクルマ」~生活道路、思いやりの気持ちをもって走っていますか?
・街に生きるコミュニケーション術
・特別付録「ストレス診断カード」
・森の香り付き診断カード

●お問い合わせ先

本田技研工業(株)安全運転普及本部
TEL:03-5412-1736